

ホソバセセリ *Isotheon lamprospilus* C. et R. Felder

【選定理由】

本県では平地から低山地の草地、疎林、林縁部などに点々と分布し個体数は多くはなかったが、産地や個体数が減少している。殊に平地部では急激に減少し稀になっている。

【形態】

♂♀の色彩斑紋はほとんど同じである。特に、後翅裏面の斑紋は特異で、中室内の白斑を中心として8個の白斑が環状に並び、その白斑周囲は黒色に縁取られている。この特徴が種の同定の目印になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

三河山地から尾張東部や北部丘陵地にかけて分布する。豊田市タカドヤ湿地周辺など地域によっては多産する所もある（笹俣ほか、未発表）が、平地部では稀である。

豊田市（旧稲武町、旧旭町、旧豊田市、旧小原町など）、設楽町、豊根村、豊橋市、名古屋市、犬山市、瀬戸市、東海市などで確認されている（高橋ほか、1991）ものの、平地部では2000年代に入ってから、瀬戸市（海上の森で計3頭確認（高橋ほか、2016～2018））、春日井市（JR 廃線の草原で確認（高橋、2015））、小牧市の丘陵部で確認（東野、2014）されている数例（私信、未発表）程度であり、名古屋市や東海市などで再確認されたとの報告は確認できていない。

【国内の分布】

九州、四国、本州に分布するが北限は山形県、南限は鹿児島県である。東北地方や本州中部の山地では稀となる。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国、台湾、ベトナムに分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

通常年1回、7月中～下旬に発生が多い。平地から丘陵部の森林に接した草地、疎林、林縁部や路傍に見られる。食草はススキ類であり、袋状の巣を垂下させその中で蛹化する。飛翔は、他のセセリチョウ類ほど速くなく、すぐに葉上に止まる。

【現在の生息状況／減少の要因】

平地部での個体数は激減している。里山の管理放棄と考えられるものの減少の詳細は不明である。

【保全上の留意点】

草地・疎林・林縁部や路傍の確保と産卵できるススキ、オオアブラススキなどのイネ科植物の生育地の確保や管理が必要と思われる。

【引用文献】

高橋 昭ほか、1991. 愛知県のチョウ類. 愛知県の昆虫, (下) : 28. 愛知県.

【関連文献】

高橋匡司ほか、2001. 旭町のチョウ類. 旭町の昆虫: 232. (財)旭高原自然活用村協会.

白水 隆、2006. ホソバセセリ. 日本産蝶類標準図鑑: 304. 学習研究社, 東京.

日本チョウ類保全協会(編)、2012. ホソバセセリ. フィードガイド日本のチョウ: 288. 誠文堂新光社, 東京.

(2015年リスト付属資料を一部修正)



春日井市, 2012年7月8日, 高橋匡司 撮影

県内分布図

